



令和3年度 学校だより

はがきた

第3号 令和3年6月25日

教育目標

集中して学び、生命と人権を守り、生きる力の基礎を身に付けた子どもを育成する。
『学ぶ子 守る子 がんばる子』

1学期、残すところあと1か月！

予報に反し平年よりやや遅めの梅雨入りとなりましたが、保護者の皆様にはますますご健勝のことと思います。6月21日（月）に夏至を迎え、いよいよ暑い夏を迎える頃になってきました。1学期はあと1か月を切りました。児童は、少しずつ夏休みが気になりだしているようです。よく晴れた日には、校庭で元気よく遊んだり、雨の日には、図書室を利用してたくさんの本を読んだりしています。読書好きな児童が多いことはとても素晴らしいことですね。人間の成長は、体だけでなく心が成長することも必要です。生きていく中で経験全てが、心が成長するための「心の栄養」となります。読書は良質の栄養ですね。周囲にいる大人みんな子どもたちの成長を応援していきましょう。

2ページ目に「心の栄養」について少し書いてみましたので、そちらもお読みいただければ幸いです。



児童の活躍は元気の源です!!

6/19, 20の土日に、県スポーツ少年団バレーボール大会があり、本校の男子チームが準優勝という輝かしい成績を収めました。また、20日（日）には、県陸上競技記録会があり、6年の高松和花さんがコンバインドBで4位という素晴らしい成績を収めました。良い成績を収めたことはもちろん立派ですが、それに向かうまでの努力をたたえたいと思います。今、そういったスポーツの大会や授業での体験活動など、児童の一生懸命な姿をよく見ることができます。良い成績を残したいとがんばっているとは思いますが、力を出し切り、満足いく取組ができれば、それが最も素晴らしいと感じています。そしてそれが周囲の多くの人に感動と元気を与えてくれます。さらなる活躍を期待しています。

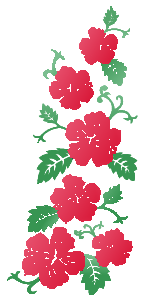


図書委員による読み聞かせ!!!

6月22日（火）、朝の読書の時間に、図書委員による読み聞かせが行われました。これは、図書委員5、6年生が1～3年生の教室を訪ねて読み聞かせを行うものです。それぞれが一生懸命に練習し、中には書画カメラを使ったりと、工夫し真剣に読んでいました。聞く側の児童も真剣に聞き入っていました。本校の児童は読書好きが多く、図書室で借りる本の量が多いです。こういった読書活動がしっかりとできていることがその一因であると思います。さらに続けていければと思っています。

7月の主な行事予定

- | | | | |
|-------|---|-------|-----------------------|
| 1（木） | 登校バス早便遅便交換
町学力向上研修会
(石田先生来校) | 16（金） | 1年家庭教育学級
6年LRT見学 |
| 6（火） | 更生保護女性会ボランティア来校 | 20（火） | 終業式 表彰 |
| 7（水） | 北小タイム（縦割班共遊） | 21（水） | 夏季休業（～8/31）
個人懇談開始 |
| 12（月） | 5年生き物調査 | 22（木） | 海の日 |
| 13（火） | 読み聞かせ
5年環境教育（ホンダEM来校）
更生保護女性会ボランティア来校 | 23（金） | スポーツの日
東京オリンピック開会 |
| | | 31（土） | 県立中学校説明会（宇東附中） |



☆児童たちの活躍・学校生活の様子☆

【エコステーション見学】(4年)



【自然体験学習】(4年)



【墨絵体験】(6年)



【タブレットを活用した授業】



【華道体験】(6年)



心に栄養を ～認めるということ～

私たちは、人として成長していくには体だけでなく心の成長も必要です。そして、体が育つには栄養が必要のように、心が育つにも栄養が必要です。生きていく中での全ての経験が心の栄養となります。当然のことながら、良い成長をするには良質な栄養が最も大切だといわれています。さて、良質な心の栄養とは何でしょうか。

心の栄養にはたくさん考えられますが、最も嬉しいのは、他者から「認めてもらえる」という栄養だといわれています。人間にはいくつかの欲求というものがあり、その中で一番強いものが「承認の欲求」、つまり、「認めてもらいたい」というものなのだそうです。考えてみると、自分でも、子どもでも思い当たるような気がします。その欲求が満たされると、俄然やる気が出て、自分の持っている能力を最大限に発揮できるのです。

では、「認める」とは、具体的にどのように働きかければよいのでしょうか。最も簡単な方法は、「ほめる」ということです。良くできたことや良い行動をほめてやるのがとても大切なのです。良いところがなかったら心配しますが、そんなことはありません。短所は見方を変えれば長所でもあるわけです。例えば、早とちりをする子には「スピーディー」、逆に動作の鈍い子には「慎重」といった具合です。こういった言い換えをリフレーミングといいます。相手がその言葉をどう受け取るか、それを考えながら言葉を発することができるといいですね。

気をつけなければならないことがあります。それは、心の栄養を受け取るには、受け取ろうとする素直な心が必要だということです。せっかく相手がほめているのに、それを受け取ろうとしなければ心の栄養にならないのです。また、人はときに、注意をひきたくて、怒られるとわかっているにもかかわらずわざといたづらをするといった行為が見られます。これは、相手に無視されるよりは怒られた方がいいと思うからだと思います。心の栄養を正しく受け取る準備として、毎日少しずつ「おはよう」「ありがとう」などの言葉をかけるだけでも違ってきます。心の栄養をためるにも、まずは挨拶からなんですね。



※芳賀北小ホームページでは、カラーで学校だよりを掲載しています。ぜひ御覧ください。